

令和 2 年度第 2 次燕市食育推進計画の進捗状況

健康づくり課

第2次燕市食育推進計画指標項目一覧

計画期間：平成29年度～令和4年度

進捗基準：◎目標値を達成 ○概ね達成(80%以上) △未達成だが基準値より改善 ▼基準値未達

【目標達成率(%) = (R2年度調査時実績値 - 基準値) ÷ (R4年度目標値 - 基準値)】

*がついている指標項目は次期計画策定時に調査予定

基本目標								
指標項目	対象	第1次計画 策定時基準値	第2次計画 策定時基準値	H30年度 調査時 実績値	R元年度 調査時 実績値	R2年度 調査時 実績値	R4年度 目標値	評価
1 健康寿命の延伸を目指し、望ましい食習慣を実践する								
毎食、主食・主菜・副菜を そろえて食事をしている人 の増加*	小中学生	—	37.9% (H27)	—	—	—	60%以上	—
	保護者	—	27.2% (H27)	—	—	—	60%以上	—
ご飯を1日2食以上食べる人 の増加*	小中学生	98.3% (H22)	96.8% (H27)	—	—	—	100%	—
	保護者	97.0% (H22)	93.5% (H27)	—	—	—	100%	—
野菜を毎食食べる人の増加 *	小中学生	38.6% (H22)	38.6% (H27)	—	—	—	60%以上	—
	保護者	29.1% (H22)	31.2% (H27)	—	—	—	60%以上	—
朝食を毎日食べる人の増加 *	小中学生	88.9% (H22)	89.6% (H27)	—	—	—	100%	—
	保護者	92.7% (H22)	87.6% (H27)	—	—	—	100%	—
よく噛んで味わって食べて いる人の増加*	小中学生	—	79.7% (H27)	—	—	—	90%以上	—
	保護者	—	67.7% (H27)	—	—	—	80%以上	—
減塩に心がけている人の増加 *	保護者	—	52.7% (H27)	—	—	—	70%以上	—
	成人	—	45.8% (H28)	—	—	—	70%以上	—
メタボリックシンドローム該当者、 予備群者割合の減少	—	—	30.6% (H27)	31.1% (H29)	30.8% (H30)	31.5% (H31)	26.0%以下	▼
就寝前の2時間以内に夕食をとるこ とが週3回以上ある人の減少	—	—	14.1% (H27)	13.1% (H29)	14.7% (H30)	14.6% (H31)	13.0%以下	▼
朝食を抜くことが週3回以上ある人の 減少	—	—	5.4% (H27)	5.1% (H29)	6.3% (H30)	6.5% (H31)	5.2%以下	▼
2 食を通じたコミュニケーションと食への感謝の気持ちを育む								
家族そろって食事をする人 の増加*	小中学生	59.3% (H22)	74.6% (H27)	—	—	—	80%以上	—
	保護者	75.6% (H22)	77.1% (H27)	—	—	—	80%以上	—
食事がおいしい・楽しいと 感じる人の増加*	小中学生	67.9% (H22)	74.2% (H27)	—	—	—	80%以上	—
	保護者	68.8% (H22)	70.2% (H27)	—	—	—	80%以上	—
「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をする人の 増加* 【毎回・時々含む】	小中学生	92.5% (H22)	90.4% (H27)	—	—	—	100%	—
	保護者	88.7% (H22)	87.3% (H27)	—	—	—	100%	—

基本目標

指標項目	対象	第1次計画 策定時値	第2次計画 策定時基準値	H29年度 調査時 実績値	H30年度 調査時 実績値	R元年度 調査時 実績値	R4年度 目標値	評価
------	----	---------------	-----------------	---------------------	---------------------	--------------------	-------------	----

3 食に関する様々な体験を通じ、燕市の食文化を次世代へ伝承する

燕市の郷土料理を知っている人の増加* 【1つ以上知っている】	小中学生	94.3% (H22)	95.3% (H27)	—	—	—	100%	—
	保護者	98.1% (H22)	97.5% (H27)	—	—	—	100%	—
食事を作る手伝いをする子どもの増加*	小中学生	37.0% (H22)	26.2% (H27)	—	—	—	50%以上	—
農作物を育てたり収穫する体験のある子どもの増加*	小中学生	64.2% (H22)	63.7% (H27)	—	—	—	70%以上	—
燕市の農作物で特産品を知っている子どもの増加* 【1つ以上知っている】	小中学生	80.7% (H22)	96.3% (H27)	—	—	—	100%	—

4 食の安全と地元産農作物への理解を深め、地産地消を推進する

食の安全性に関心を持つ人の増加*	保護者	57.4% (H22)	64.4% (H27)	—	—	—	80%以上	—
食品の表示を確認して購入する人の増加*	保護者	99.3% (H22)	98.3% (H27)	—	—	—	100%	—
燕市産・新潟県産を意識して食品を購入する人の増加*	保護者	70.7% (H22)	72.8% (H27)	—	—	—	80%以上	—

燕市食育推進計画 活動指標各課実施状況

No.	活動指標名	単位	H30年度	R1年度	R2年度	R2年度評価 ／担当課
1	つばめ食育だより掲示施設数	施設	72	92	207	A／健康づくり課
2	食生活改善推進委員活動回数 (H30.R1は集会活動回数、R2は個別活動回数)	回	81	84	1,320	A／健康づくり課
3	3歳児の野菜を毎食食べる割合	%	49.5	52.7	53.6	B／健康づくり課
4	3歳児むし歯有病者率	%	8.3	7.4	7.2	A／健康づくり課
5	生活習慣改善事業体重腹囲減少割合	%	—	75.0	74.0	B／健康づくり課
6	フレイル予防に関する情報発信回数	回	10	13	11	A／健康づくり課
7	幼保こども園給食喫食量	%	98.7	98.8	98.9	A／子育て支援課
8	キッズ健康講座参加人数	人	128	47	17	B／子育て支援課
9	児童館等での食育活動回数	回	54	61	13	B／子育て支援課
10	食育教材使用学校食育啓発回数	回	20	36	36	A／学校教育課
11	アレルギー対応の推進	—	—	—	—	B／学校教育課
12	学校給食地産地消率	%	32.2	36.0	36.0	A／学校教育課
13	要支援者通所型健康教室参加者数	人	67	47	43	A／長寿福祉課
14	高齢者配食サービス利用者数	人	80	90	114	A／長寿福祉課
15	燕市農業まつり来場者数 (R2は「つばめ食べて応援キャンペーン」)	人	9,300	10,200	17,675	A／農政課
16	みそづくり講習会参加者数	人	31	28	19	B／農政課
17	市内事業所農産物直売会回数	回	1	3	2	B／農政課
18	生ごみ処理機設置補助金額	千円	157	51	100	B／生活環境課
19	食品衛生協会補助金額	千円	163	163	163	C／生活環境課
20	食品ロス削減計画策定	—	—	—	否	B／生活環境課
21	子どもエコ料理教室参加者数	人	34	32	0	C／社会教育課
22	家庭教育推進事業参加者数	組	38	44	0	C／社会教育課
23	ワークライフバランス理解度	%	92	92	95.2	A／地域振興課
24	道の駅国上おにぎり提供食数	食	4,915	5,185	3,531	B／商工振興課
25	アレルギー対応非常食備蓄数	食	720	1,440	2,160	B／防災課
26	防災出前講座実施回数	回	35	21	18	B／防災課
27	女性防災リーダー養成講座受講者数	人	21	37	37	A／防災課

燕市の食育「食を通して心のつながりと元気なからだを育てます」

基本目標1 健康寿命の延伸を目指し、望ましい食習慣を実践する



離乳食動画配信開始



健診結果個別相談会



食育パンフレット作成配付



図書館食育の本コーナー設置



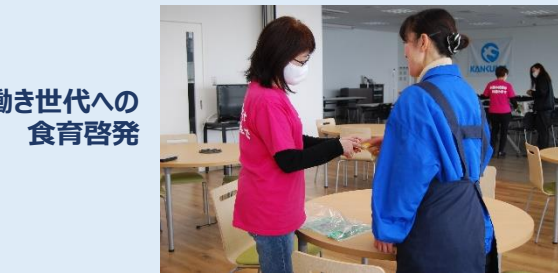
女性防災リーダー養成講座



学校給食減塩愛ディア献立



図書館食育の本コーナー設置



働き世代への食育啓発

基本目標2 食を通じたコミュニケーションと食への感謝の気持ちをはぐくむ



広報つばめいただきますの顔掲載

女性活躍推進フォーラム



元気磨きたい男のチューボーP



つばめ食育だより「共食のすすめ」



食品ロス削減ポスター

燕市の食育



児童館での食育 三色バランス隊



オンラインによる食育講座



幼保こども園での食育



食物アレルギー研修会



つばめ食べて！応援キャンペーン



若手農家による農産物直売会



栽培したサツマイモを使って調理



けんこうづくりチャレンジ企画



つばめキッズファーム事業



道の駅国上にて販売
燕市産米おにぎり



地元産農作物学校給食提供



三ツ星給食作り方動画配信

基本目標3 食に関する様々な体験を通じ、燕市の食文化を次世代へ伝承する

基本目標4 食の安全と地元産農作物への理解を深め、地産地消を推進する

令和2年度 燕市食育推進計画 実施状況・評価票

【評価の基準及び評価の表記】

事業の評価は、指標に対する達成率及び事業の実施状況で評価ポイントの取組を行った項目数により、下記基準表により、成果(効果)を得られたか、3段階で表記するものとする。

【評価基準算出表】

評価ポイントの取組を行った項目数	目標値	
	達成	未達成
3	A	B
1~2	B	B
0	C	C

A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

B :食育の視点を取り入れ事業を実施している

C :食育の視点で事業を実施できなかった

No.1

健康づくり課 健康チーム

事業名	つばめ食育だよりでの食育の情報提供						
実施時期	毎月19日	実施対象	市民、職員				
内容	毎月19日が食育の日であることのPRと食育情報・健康情報を燕市の状況と合わせて発信する。幼保子ども園、小中学校、公民館、体育館等の市内公共施設及び市内スーパー等に掲示を依頼。燕市ホームページで配信。計画の目標達成に向け、食育推進の各種取り組みを発信するため、各課と連携協力して食育だよりを作成する。掲示施設の拡大とホームページへのアクセス数増加のための取組を行う。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R2年	目標値の根拠
		つばめ食育だより掲示施設数	掲示施設数	施設	目標	100	令和元年度の実績92施設をもとに算出
					実績	207	
達成率	207%						
事業の実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	食育だよりのテーマについては、燕市の健康課題に対応する内容や新しい生活様式に沿った食育など、食と健康に関わる多面的な視点を持って企画した。				
	2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	子どもから高齢者まで、また計画の基本目標1から4まで、年間を通して偏りのないようテーマ選定をした。Webページの閲覧数増加に向け、広報つばめや食育ティッシュにQRコードを掲載した。				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	燕市の現状や課題、取組状況を掲載し、市独自の食育情報となるよう作成した。食育に関する関係各省の動向や県の取組に注視し、タイムリーな内容発信に努めた。				
成果及び今後の課題		新たな掲示施設として市内医療機関や調剤薬局、図書館等が加わり大幅に拡大した。内容の理解と実践、周囲への普及啓発のため食生活改善推進委員に毎月配付した。また、燕市子育てアプリで最新号配信通知を毎月実施した。今後もより多くの市民に伝達できるよう、発信先の拡大と内容の充実、効果的な誌面作成に取り組んでいく。					
担当課による評価結果			A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている				

事業名	食生活改善推進委員の活動支援と養成						
実施時期	通年			実施対象	燕市食生活改善推進委員		
内容	健康な食生活の習慣化と食文化伝承に向け、地域住民に密着した健康づくり活動を推進する委員への活動支援と養成。食育指導媒体を作成し、園児や児童、地域に向けた活動が多く展開されている。燕市の健康課題解決、他課からの依頼事業に合わせ、関係組織や団体と連携協力を図り活動を実施する。今年度は、感染リスクを伴わない新たな視点での活動方法を考える。						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R2年	目標値の根拠
		食生活改善推進委員協議会活動数	食生活改善推進委員の個別による活動総回数	回	目標	1,100	食生活改善推進委員1名につき10回実施(会員110名)
					実績	1,320	
					達成率	120%	
評価のポイント			実施内容を具体的に記入				
事業の 実施 状況	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	燕市の健康課題である肥満や糖尿病等生活習慣病予防のため、野菜不足を補う「ベジ足し」パンフレットを作成し各世代への配布を計画した。				
	2	ライフステージに応じて、参加しやすい形態を考慮したか	ベジ足しでは、特に野菜不足等課題の多い若い年代に抵抗なく取り組んでもらえるように簡単な野菜料理を集めた。新たに働き世代への啓発として企業へ訪問し昼休憩時に普及活動を行った。				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	今年度は調理実習や試食は避け、減塩商品や材料一品提供などで関心を高める工夫をした。小学生には家庭でのベジ足しレシピ調理を行うチャレンジ企画を実施した。				
成果及び今後の課題		感染予防の観点から今年度は集会ではなく、会員が個別で地域住民に対して啓発、または高齢者サロンや学校、企業に出向いた活動にチェンジして実施し、ベジ足しパンフレットは追加を含め11,000部発行した。これまでの食育媒体作成が評価された活動奨励賞受賞や郷土料理標語作成で最優秀賞受賞をした。引き続き新たな日常の視点での活動方法を考えていく。					
担当課による評価結果			A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている				

事業名	母子保健事業【ハッピーベビークラブ、乳幼児健診、予約制育児相談会、小児肥満度調査】						
実施時期	通年			実施対象	妊婦、乳幼児とその保護者		
内容	正しい食の知識や生活習慣、食事を楽しむこと等についての個別指導。 乳幼児健診身体計測値より肥満度の算出、個別指導。 広報や食育だより、ホームページでの食育情報発信。						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R2年	目標値の根拠
		3歳児野菜を毎食たべる割合	3歳児健診アンケート野菜を毎食たべる人数/3歳児健診受診者	%	目標	55%以上	野菜を毎食たべる人数/3歳児健診受診者 H29年度 284/574(49.5%) H30年度 279/564(49.5%) H31年度 271/575(52.7%)
					実績	53.6%	
					達成率		
評価のポイント			実施内容を具体的に記入				
事業の 実施 状況	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	妊娠期・乳幼児期から望ましい食習慣の形成を獲得することを目標とし運営方法を考慮して企画している。				
	2	ライフステージに応じて、参加しやすい形態を考慮したか	今年度は来所や訪問、電話での相談の他、オンラインでの相談も開始。さまざまな形で相談ができるような工夫している。また離乳食動画や食育、減塩等ホームページ内容を充実させた。				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	各年齢に合った発育発達のための適切な食の指導を行うとともに、楽しく共食する体験を通して食べる意欲や心の豊かさを育てるといった食の視点を取り入れている。				
成果及び今後の課題		「野菜を毎食たべる人数」は1歳6か月児健診時は6~7割を推移しているが、3歳児健診時においては5割程度である。好き嫌いが出てくる年代でもあるが、のちの食生活の基盤を作る大切な時期でもあるため、健診時やホームページなどを通じて情報発信や個別指導を充実させていく。また、保護者の食習慣が子どもの食習慣に大きな影響を与えるため、妊娠期から食に関心を持つような事業運営が必要である。					
担当課による評価結果			B :食育の視点を取り入れ事業を実施している				

事業名		歯科健診などでの生涯各期に応じた食育の推進						
実施時期		通年	実施対象		市民			
内容		① 妊婦 : 妊婦歯科健診 ② 子ども : 幼児健診・幼児歯科健診でのフッ化物歯面塗布、全園や小学校でのフッ化物洗口、虫歯予防教室 ③ 成人・高齢者 : 歯周病疾患健診(40,50,60,70歳)、長寿歯科健診(76,80歳)、訪問歯科診療、保推・食推活動、笑顔の宅配プロジェクト ④ 歯っぴーフェア (歯科医師会主催) ④ かがやきポイント事業 :ポイント手帳項目(よくかむ、毎食後歯みがき)						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位	R2年		目標値の根拠	
		3歳児むし歯有病者率	3歳児むし歯有病者/3歳児健診受診者	%	目標	10%未満		燕市歯科保健計画評価指標
					実績	7.2%		
					達成率	100%		
事業の実施状況		評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	歯や口腔の健康と食生活には密接な関係があることから、歯科保健における各世代の目標、各種事業における口腔ケアに合わせた食育の推進を取り入れている。						
	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	妊婦教室や幼児健診に合わせた事業実施、園・学校での取り組みの他、笑顔の宅配プロジェクトや高齢者サロンにてオーラルフレイルの啓発を行った。						
	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	幼児健診では口腔ケアだけでなく食事内容や間食のとり方について指導を行った。また笑顔の宅配プロジェクトや高齢者サロンにおいてはお口の体操の他、フレイル予防の食事の普及を行うなど、各事業において食育の視点を取り入れた。						
成果及び今後の課題		3歳児むし歯有病率は今年度(R2.12月現在)も目標値を達成できている。妊婦、子ども世代には食習慣基盤づくりと歯の健康について、成人・高齢者世代には生活習慣病やフレイルと歯の健康を関連させた事業を実施していく。						
担当課による評価結果		A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている						

事業名		成人保健及び健康づくり事業における食育推進 (特定保健指導・糖尿病予防・骨粗鬆症予防・メタボ予防・職域健診指導・元気磨きたいプロジェクト活動)						
実施時期		通年	実施対象		市民			
内容		各種成人保健事業について今年度は個別対応による相談会を開催する。新たにラジオや広報などの媒体で糖尿病・メタボ予防、減塩などの食育情報を発信する。特定健診や職域健診会場など市民へ発信可能な場所で、減塩・肥満予防・糖尿病予防の食事について、媒体やパンフレットを用いて普及啓発を実施。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位	R2年		目標値の根拠	
		生活習慣改善事業参加者改善状況	参加者のうち体重または腹囲が減少した人の割合	%	目標	75		令和元年度の実績75%をもとに算出
					実績	74		
					達成率	98.7%		
事業の実施状況		評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	計画的に体重を減らしていくプログラムの中で、食事内容の確認と改善点の整理が必要なことから、参加者には2日分の食事記録の提出と栄養士による面談をカリキュラムに盛り込んだ。						
	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	初回に担当との面接を経て、体重管理と並行して食事の見直しができるよう、最初の段階で栄養士の面談を実施するようにした。個人のニーズに応じて、面談のほか書面上のやり取りや電話での支援を行った。						
	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	個々の生活に沿った減量の計画を立て、生活と食事の内容を同時に確認している。1か月に1回、メールや電話、または面接で食事資料などを提示しながら支援を行い、参加者のやる気を引き出している。						
成果及び今後の課題		個人のライフスタイルに合わせた個別の減量プログラムとして、健康に関心のある人が参加。参加者19名の中で、体重または腹囲が減少した方が14名、体重を増やさず維持した方は4名おり、データ上で変化がなくても、「間食の内容や食事の食べ方が変化した」、「体重を毎日測る習慣や運動習慣がついた」などの、生活習慣に変化が見られたという感想が多く寄せられた。今後は他の保健事業にもつなげ、支援の継続をはかり、効果を上げていきたい。						
担当課による評価結果		B :食育の視点を取り入れ事業を実施している						

事業名	介護予防関連事業における食育推進						
実施時期	通年		実施対象	高齢者			
内容	高齢者に向けて参加者の年代と身体状況を加味し、食に対する興味関心を高め、普段の食生活を振り返りつつ、しっかりと3食バランス良く食べることや、カルシウム・たんぱく質等摂取のすすめを中心に低栄養状態(フレイル)を予防する情報発信を行う。熱中症予防や災害への備え等、時期に合わせて必要な食育情報を伝達する。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位	R2年	目標値の根拠 過去の実績に基づき算出 (H30:10件、R1:13件)	
		フレイル予防に関する情報発信回数	健康教育やメディアを通じた発信等の回数	回	目標		10
					実績		11
				達成率	110%		
事業の実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	地区担当保健師や地区の世話役等と相談し、実施時期や年代を踏まえて参加者のニーズに合った内容で食育教育内容を検討する。				
	2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	感染症予防のため、調理実習や試食の提供は自粛し、参加者の年代や人数を考慮し、クイズ、レクリエーション・食育媒体などを組み合わせ、より興味・関心を持ってもらえるような内容を心がけた。				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	感染症予防と免疫力向上の視点も盛り込み、低栄養予防の啓発を行った。実施時期に応じ、熱中症予防、減塩の啓発、防災食などの紹介も行った。引き続き、高齢期の健康課題であるフレイル予防や骨粗しょう症予防に関しても啓発を強化していく。				
成果及び今後の課題		感染症予防のために年度前半はサロンや通いの場が開催できない事態が続いたが、7月から感染症対策をしながら健康教育を行い、参加者の関心が高い免疫力向上に絡めて低栄養・フレイル予防の啓発をした。今後も高齢者の関心が高まっている健康テーマをとらえて、より参加者が理解しやすい媒体作成と健康教育を実施していく。					
担当課による評価結果		A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている					

事業名	幼稚園・保育園・こども園における給食の提供						
実施時期	通年		実施対象	園児			
内容	<ul style="list-style-type: none"> 給食の提供を通して、園児へ食事のマナーや食物の知識について食育を実施。 食物アレルギー疾患をもつ園児に「食物アレルギー対応食」を提供する。 給食だより、給食展示、給食の試食、レシピの提供により給食内容を保護者へ周知する。 行事食や伝統食を取り入れて食文化を継承していく。 地産地消の推進(吉田地区:地元のプロデューサーから農産物を納品 じゃが芋、玉ねぎ、大根、南瓜、長ねぎなど) 						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位	R2年	目標値の根拠 令和元年度実績98.8%に基づく	
		喫食量	出席者の摂取量/ 在籍者の発注量	%	目標		99
					実績		98.9
				達成率	99.9%		
事業の実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	季節にあわせ、旬の食材を取り入れた献立作成を実施した。また行事食や昔ながらの郷土食(のっぺや菊のおひたしなど)を取り入れ、幼児期から慣れ親しんでもらう。				
	2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	給食の展示や保護者に試食やレシピの提供をしている。また、給食だよりや講座を通して食に関する情報を提供している。				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	園の給食を通して、食事のマナーを学び、食べ物への興味や知識を高め、人と一緒に食べる喜びを実感できるよう取り組んでいる。				
成果及び今後の課題		例年、ほぼ変わりなく喫食量が維持されている。これからも、年度の後半で、子どもが園の給食に慣れてきたタイミングで調査を継続する。					
担当課による評価結果		A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている					

事業名	キッズ健康講座						
実施時期	年1回	実施対象	園児・保護者・職員				
内容	テーマは「噛むことの大切さ」。園児、保護者、職員を対象によく噛むことでどんな効果があるのかについて食育講座を行う。その他に、野菜のクイズを行ったり、実際に野菜を持たせてみるなど食に興味・関心を持ってもらえるよう工夫をする。今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため例年行っていた給食の試食は実施しないこととした。						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R2年	目標値の根拠
		食育講座の参加人数	実施した講座の参加人数	人	目標	60	食育講座実施園の園児、保護者、職員の見込み人数
					実績	17	
					達成率	28.3%	
事業の 実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	よく噛む習慣を幼児期から身に付けてもらうために、よく噛むことの重要性について普及する。				
	2	ライフステージに応じて、参加しやすい形態を考慮したか	保護者が参加しやすいよう保育参観に合わせて講座を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため保育参観時の講座は見合わせ、園児・職員のための講座を行った。				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	園児が食に興味・関心を持てるように講座だけではなく、野菜クイズなどの動機づけを行った。				
成果及び今後の課題		今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため保護者を参加対象とすることができず、達成率が低くなってしまったが、講座時の園児の反応はとてもよく、内容をよく理解しているようであった。今後も新型コロナウイルス感染症の対策を講じ、継続していきたい。					
担当課による評価結果		B : 食育の視点を取り入れ事業を実施している					

事業名	児童館・児童クラブ・子育て支援センターでの食育活動						
実施時期	イベント再開～令和3年3月まで	実施対象	0～18歳までの子ども・保護者				
内容	食物に関する知識を高めるとともに、食物をつくる楽しさやおいしさを体験することで食への興味や関心をもつことができるよう食育活動を実施し、幼児期・児童期からの食べ物の大切さや食への感謝の気持ちを育むことができるよう支援する。昨年まで実施していた児童館・児童クラブでの旬の食材の収穫体験、収穫した食物を使用した調理実習、子育て支援センターでの旬の食材をつかった調理実習、子育てサークルでのお菓子作りを通じたママ同士の交流など、新型コロナウイルス感染防止の対策を行ったうえで、食育講座実施を開催する。						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R2年	目標値の根拠
		食育講座の実績回数	各施設での実施回数の合計	回	目標	20	令和元年度実績の3割程度(1施設1回程度の開催として)
					実績	13	
					達成率	65%	
事業の 実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	新型コロナウイルス感染症予防のため、調理実習やたくさんの方が集まる講座は開催を見合わせている。しかし、対策を行ったうえで、食することは避け、施設で育てた野菜・果物の収穫を通して、食材の旬を知ることができた。				
	2	ライフステージに応じて、参加しやすい形態を考慮したか	児童館や子育て支援センターで実施することで、子どもと保護者が参加しやすい環境であった。また、感染症対策として利用者の人数制限、距離間を保ったうえでの開催を実施することができた。				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	調理実習や試食体験ができなくても、食育クイズの講座や野菜の栽培などの体験をとおして、食に興味を持ってもらうことでできた。				
成果及び今後の課題		今年度は例年の食育講座に加えて、食育ロスについての講座を支援センターで実施したこともあり、食育講座の回数は昨年度より増加した。それぞれの講座を毎年、継続し乳幼児期からの食への関わりを増やして行きたい。					
担当課による評価結果		B : 食育の視点を取り入れ事業を実施している					

事業名	学校給食の提供及び児童生徒への食育						
実施時期	通年			実施対象	児童生徒及びその保護者等		
内容	①「給食&食育だより」の発行、ホームページへの掲載 ②「食の指導プラン燕」の策定、食育教材の周知と貸し出し ③毎月1回「減塩愛ディア献立」を実施し、給食だよりや放送を通じて児童生徒及び家庭に減塩を啓発						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R2年	目標値の根拠
		児童生徒への食育指導回数	教育委員会が貸し出す食育教材を使用し、学校が主体的に食育に取り組んだ件数	件	目標	20件	令和元年度36件だったが、休校が続いたことにより、大幅に減ると見込まれるため。
					実績	36件	
					達成率	180%	
事業の実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	年間指導計画に沿って、給食&食育だより等を通じて、児童生徒及び保護者への啓発を行った。					
2	ライフステージに応じて、参加しやすい形態を考慮したか	発達段階にあわせた食育教材の周知と貸出を行った。					
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	「減塩愛ディア献立」では、給食提供だけでなく、放送等を通じて児童生徒が減塩を意識できるように努めた					
成果及び今後の課題	新型コロナウイルス対策で食育への取り組みが減るのではないかと考えられたが、昨年度並みに取り組んでいた。減塩愛ディア献立は、月1回実施しており、放送等で児童生徒に減塩について啓発を行っている。今後は普段の給食においてもさらに食塩を減らしていくため、工夫を重ねる必要がある。						
担当課による評価結果			A : 実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている				

事業名	食物アレルギー対応の推進						
実施時期	通年			実施対象	児童生徒及びその保護者、教職員、調理従事者等		
内容	①食物アレルギー対応委員会の開催 ②教職員を対象とした食物アレルギー研修会の実施 ③食物アレルギーをもつ児童生徒の保護者との情報交換会の実施 ④小中学校及び燕中等教育学校における適切な食物アレルギー対応給食の実施、並びに食物アレルギーをもたない児童生徒への啓発						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R2年	目標値の根拠
					目標		
					実績		
					達成率		
事業の実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	食物アレルギーをもつ児童生徒が安全に給食時間を過ごせるよう、昨年度改訂した「燕市立小・中学校における食物アレルギー対応マニュアル」に沿って対応を行った。					
2	ライフステージに応じて、参加しやすい形態を考慮したか	教職員及び保護者の参加しやすさを考慮し、アレルギー研修会は夕方、情報交換会は夜間に実施した。					
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	アレルギー研修会において医師から講演いただき、アレルギーをもつ児童生徒の安全につながる知識の普及を行った。					
成果及び今後の課題	食物アレルギー対応マニュアルに沿った対応が浸透してきたことにより、学校生活管理指導表に基づく食物アレルギー対応が定着し、安全性が高まった。 食物アレルギーがあると保護者が申し出た児童生徒には必ず受診を勧め、対応につなげていることから、食物アレルギー対応が必要な児童生徒が増えた。						
担当課による評価結果			B : 食育の視点を取り入れ事業を実施している				

事業名	学校給食における地産地消の推進						
実施時期	通年			実施対象	市内小中学校の児童生徒		
内容	①学校給食において、燕市産野菜の使用を推進 (1)毎月生産者に野菜の使用予定一覧を送り、野菜の納入を働きかける。 (2)給食時間の放送で、生産者名や地区を伝え、食への感謝の念を醸成 ②越後中央農業協同組合から給食用精米を購入 ③西部学校給食センターにおいて、地元企業が製造した給食用物品を展示						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R2年	目標値の根拠
		学校給食における野菜の地産地消率	燕市産を含む県内産野菜の使用割合	%	目標	36%	令和元年度実績36%
					実績	36%	
達成率	100%						
事業の実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	野菜納入会議は今年度実施できなかったが、納入可能な青果物について生産者と連絡を取り合い、献立作成にいかした。				
	2	ライフステージに応じて、参加しやすい形態を考慮したか	学校給食の喫食者は小中学生であるが、給食&食育だよりを通じて、保護者に向けて情報発信を行った。				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	地元生産者から納品された青果物を使用した場合、各学校へ、生産者の名前と野菜名を事前に連絡し、給食時の放送等を通じて情報提供した。				
成果及び今後の課題		生産者や野菜納入業者の協力により、多くの地場産野菜を使用することができ、食の安心安全にもつながった。 高齢化等により、学校給食への納入をやめる生産者もあり、新規開拓が今後の課題である。					
担当課による評価結果			A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている				

事業名	通所型サービスC「健康教室」						
実施時期	5月～3月			実施対象	要支援1・2、総合事業対象者		
内容	●運動指導:理学療法士等による運動(下肢筋力UPのための筋トレなど) ●口腔ケア:口腔清掃指導、唾液腺マッサージ指導 ●栄養指導:「低栄養の予防・バランス食のすすめ」についての講話、食事姿勢の指導(誤嚥性肺炎の予防)、パンフレットを用いて低栄養・脱水予防の指導						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R2年	目標値の根拠
		健康教室参加者数	年間7回分の教室参加者数	人	目標	30	令和元年度の実績に基づき算出(令和元年度の参加者47人) ※令和2年度はコロナウイルスの関係で5～9月は全て中止になる可能性があるため。
					実績	43	
達成率	143%						
事業の実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	心身の機能維持・向上を目指し、基本チェックリスト該当者や長寿歯科健診受診者(口腔機能低下の人)などを対象に、口腔機能向上プログラムや栄養指導を実施している。				
	2	ライフステージに応じて、参加しやすい形態を考慮したか	今年度80歳になる介護認定のない人や総合事業対象者でない人に対して基本チェックリストを実施し、該当した人を対象とした。要介護に近い状態の人や一般介護予防レベルの人には状態に合ったサービスを紹介している。				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	食育だよりなどの媒体を用いて、「低栄養の予防・バランス食のすすめ」についての講話や食事姿勢(誤嚥性肺炎の予防)・脱水予防の指導を行っている。				
成果及び今後の課題		今年度1クール目は開催時期を延期して実施、2クール目は中止、3クール目は吉田・分水地区のみ実施となった。利用希望者はいるものの、事業自体が中止になり、必要な人がサービスを受けられていない現状がある。また実施要項やガイドラインでは、入院などがきっかけで一時的にADLが低下した人などを対象に短期集中型で介護予防プログラムを実施すると示されているため、対象者がタイムリーにサービスを受けることができるよう事業の体制を見直し、本来の通所型サービスCとしての効果をさらに引き出す必要がある。					
担当課による評価結果			A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている				

事業名	高齢者福祉サービス:配食サービス事業						
実施時期	通年 提供日数:週2日以内(1日1食)	実施対象			以下のすべてに該当する人●70歳以上の人 ●ひとり暮らし、または世帯全員が高齢者の人 ●世帯の全員が次のいずれかに該当 ①要介護および要支援の人 ②身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳のうちいずれかの交付を受けている人		
内容	ひとり暮らしの高齢者などのうち、安否確認が必要で自ら食事を用意することが困難な人に対して、1食300円で食事を提供する。 ※事業の対象に該当しない人についても、民間の配食サービス事業所の紹介をしている。						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R2年	目標値の根拠
		配食サービス 利用者数	配食サービスを利用する人の実人数	人	目標	90	過去の実績に基づき算出 (平成30年度80人、令和元年度90人)
					実績	114	
					達成率	127%	
事業の 実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	基本的な栄養バランスのとれた食事を提供してもらっている。					
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	サービスの利用日以外でも食の確保が必要な人には、事業とは別に宅配弁当を紹介している。また、対象に該当しない方に対しては民間の配食サービス事業所を紹介することで、利便性の向上を図っている。					
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	継続して利用されている人が多い。新規での申し込みも増えており、毎月増加傾向である。配食サービスを利用することで、安全な食の確保、低栄養予防につながっていると考える。					
成果及び今後の課題		食の確保や栄養バランスのとれた献立を考えるのが難しい人でも、安否確認を兼ねて安全・安心な食を確保することができ、安定した食習慣を身に着けることができる。今後もサービスを必要とする人が利用しやすい事業の実施に努める。					
担当課による評価結果			A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている				

事業名	燕市農業まつり						
実施時期	11月上旬	実施対象			燕市民他		
内容	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止した。 その代替イベントとして、地元産農産物に応募用シールを貼り、点数を集めて応募すると景品が当たる「つばめ“食べて”応援キャンペーン」を開催した。						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R2年	目標値の根拠
		農業まつり来 場者数	来場者の車の台 数 等	人	目標	10,200	昨年度実績(実績は応募数としたため、達成率は記載しない)
					実績	17,675	
					達成率		
事業の 実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	地場産農産物の消費活性化を図り、地産地消を推進することを目的とした。					
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	スーパーや直売所で販売している農産物に応募シールが貼ってあるため、すべての買い物客を対象にPRすることができた。					
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	できるだけ多くの農家や販売店から参加してもらうことで、より多くの消費者にPRできるように取り組んだ。					
成果及び今後の課題		応募はがきが17,675通と想定を上回る応募があった。今後は、キャンペーンを継続開催するとともに、通常の農業まつりの開催について関係団体と検討していく必要がある。					
担当課による評価結果			A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている				

事業名	みそづくり講習会						
実施時期	2月中旬			実施対象	燕市民		
内容	農村地域生活アドバイザー連絡会の主催で、燕市産大豆を使用した味噌づくり講習会を実施する。味噌づくりに必要な技術を学ぶとともに、手作りの味噌を味わってもらうことで、地産地消の意識を醸成する。						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R2年	目標値の根拠
		みそづくり講習会参加人数	参加人数	人	目標	28	昨年度実績
					実績	19	
					達成率	68%	
事業の 実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	地元産の大豆を使用し無添加の味噌を作ることを広報に掲載し周知を図ることで、地産地消の推進を広報した。				
	2	ライフステージに応じて、参加しやすい形態を考慮したか	午前と午後に開催時間を分けることで参加できる方の範囲を広げた。				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	講師の方とコミュニケーションをとりながら味噌を作ることで味噌づくりの過程への理解を深めた。				
成果及び今後の課題		今年度は開催直前に新型コロナウイルス感染症の感染拡大が確認されたことから、作業を中止することにした。来年度は、より多くの方から講習を受けてもらうために、申込方法や実施形態などより良い運営方法を検討していきたい。					
担当課による評価結果			B : 食育の視点を取り入れ事業を実施している				

事業名	農産物販路拡大推進事業						
実施時期	通年			実施対象	燕市民、市内在勤者		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ●地元農産物の活用推進 学校給食に地元農産物を使用し、児童・生徒への認知向上と地産地消を図る。 ●定期的な農産物直売会の開催 若手農業者による市内事業所での農産物直売会。農業者が自ら対面販売を行うことで生産者の顔が分かり、消費者(事業所従業員)の安全・安心につながる。 ※課で作成した「農産物PR冊子」も一緒に活用していきたい。 						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R2年	目標値の根拠
		市内事業所での農産物直売会回数	直売会実施回数	回	目標	3	昨年度の実績
					実績	2	
					達成率	67%	
事業の 実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	直売会は生産者が自ら販売することで、安全・安心や地産地消につながることを目的とした。				
	2	ライフステージに応じて、参加しやすい形態を考慮したか	直売会では生産者が事業所に出向き、事業所の昼休憩時間帯に販売することで、来店・購入しやすくなった。また、多くの年代・ライフステージの人が興味を持ってくれるよう、青果だけでなく、加工品や総菜など販売品の幅を広げた。				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	学校給食では生産者の寄付により、5月に「もとまちきゅうり」、7月に「燕市産トマト」を使ったメニューを提供し、食への感謝の気持ちの醸成や地元野菜の認知向上を図った。				
成果及び今後の課題		直売会を「つばめ食べて応援キャンペーン」の期間に実施したことや、地元野菜を使った総菜などを新たに販売品に加えたことで、生産者と消費者のコミュニケーションが増え、燕市産の農産物をPRすることができた。新型コロナウイルス感染症の影響により実施回数は目標を達成できなかったものの、昨年度より充実した内容で開催できたと思う。コロナの影響で人が大勢集まるイベントの開催が難しい状況のため、今後はオンラインなどでも燕市の食をPRできるような体制を構築したい。					
担当課による評価結果			B : 食育の視点を取り入れ事業を実施している				

事業名	生ごみ処理機(機)設置補助金						
実施時期	通年			実施対象	市内に住所を有する者		
内容	市内の各世帯から排出される生ごみの減量化、償却の効率化及び堆肥としての資源化を図ることを目的として、生ごみ処理機の普及促進を図る。 そのため、市内に住所を有する者で、生ごみ処理機を販売する市内に本社または営業所を有する業者から、生ごみ処理機を購入し設置する者に対して補助を行う。						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R2年	目標値の根拠
		生ごみ処理機 設置補助金額	交付実績	千円	目標	50	予算額の50% (R1年度執行率34%である が、R2年度予算額が減少した ため)
					実績	100	
					達成率	200%	
事業の 実施 状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
1	企画・立案の段階で、食育の視 点を取り入れたか	-					
2	ライフステージに応じて、参加 利用しやすい形態を考慮した か	周知を図るため、4月に広報で案内を出したほか、HPに内容を掲載し情報提供を 行っている。申請者の手間を少なくするため、申請書や実績報告書をHPからダウン ロードできるようにしている。					
3	実施に関して、食育の視点を取 り入れたか	-					
成果及び今後の課題		今後も、市民へ導入するメリットなどを示しながら周知を図っていきたい。					
担当課による評価結果		B :食育の視点を取り入れ事業を実施している					

事業名	食品衛生協会補助金						
実施時期	年度末			実施対象	燕支部、吉田支部、分水支部		
内容	公衆衛生の推進を目的とする、飲食店を中心とした食品衛生協会に対し、活動資金として補助を行うことにより、食品 関係の衛生環境の保持、公衆衛生の向上を図るもの。						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R2年	目標値の根拠
		食品衛生協会 補助金額	交付実績	千円	目標	163	予算額
					実績	163	
					達成率	100%	
事業の 実施 状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
1	企画・立案の段階で、食育の視 点を取り入れたか	-					
2	ライフステージに応じて、参加 利用しやすい形態を考慮した か	-					
3	実施に関して、食育の視点を取 り入れたか	-					
成果及び今後の課題		直接的な助言・指導を行う機会が少ないのが現状。 R4年度以降は補助額減や制度の廃止を検討中である。					
担当課による評価結果		C :食育の視点で事業を実施できなかった					

事業名	食品ロス削減計画策定						
実施時期	通年			実施対象			
内容	国における食品ロスの削減の推進に関する基本的な方針(R2.3.31閣議決定)を基に、燕市において食品ロス削減推進計画の策定を目指す。食品ロスを削減していくために、市民各層がそれぞれの立場において主体的にこの課題に取り組み、市民全体として対応していくよう、食べ物を無駄にしない意識の醸成とその定着を図っていく。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R2年	目標値の根拠
		食品ロス削減計画策定	策定実績	人	目標	策定	策定の可否
					実績	否	
					達成率	0%	
事業の実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	食品ロス削減計画立案の中で、食品ロスは事業者及び消費者の双方から発生していることから各主体に求められる役割と行動を具体的に示している。これらの役割と行動は食育にも直結する内容である。				
	2	ライフステージに応じて、参加しやすい形態を考慮したか	-				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	-				
成果及び今後の課題		他県、他市の動向をみながら早急な策定に向けて検討していきたい。					
担当課による評価結果			B :食育の視点を取り入れ事業を実施している				

No.21

社会教育課 公民館事業係

事業名	子ども料理教室(Let's try! エコクッキング)						
実施時期	8月、12月			実施対象	燕地区小学生		
内容	子どもを対象とした料理教室。調理から後片付けまで「エコ」をテーマとした座学と調理実習を行う。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R2年	目標値の根拠
		子ども料理教室参加者数	累計参加者	人	目標	32	定員数より算出
					実績	0	
					達成率	0%	
事業の実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか					
	2	ライフステージに応じて、参加しやすい形態を考慮したか					
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか					
成果及び今後の課題		コロナの影響で、講師の了解を得られず、事業そのものを開催することができなかった。今後は、こういう事態になった場合に代替え事業が実施できるかも含めて検討したい。					
担当課による評価結果			C :食育の視点で事業を実施できなかった				

事業名	家庭教育推進事業(食育活動から展開する家庭教育講座)						
実施時期	6/3(水)、8/5(水)、10/7(水)、12/9(水)、3/3(水)	実施対象	乳幼児及び小学生とその保護者				
内容	<p>・親子一緒に料理することでコミュニケーションを図り、料理の楽しさや食への関心を高めてもらう。家庭で楽しみながら伝えられる「食」の大切さを学ぶ。</p> <p>・料理を通じ子どもたちに思いやりの心や感謝の気持ち、および自立心を育て、子どもの健やかな心と体の育成を図る。</p>						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R2年	目標値の根拠
		家庭教育講座参加数	講座に参加した親子の累計組数	組	目標	60	定員数より算出
					実績	0	
					達成率	60%	
事業の実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか						
2	ライフステージに応じて、参加しやすい形態を考慮したか						
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか						
成果及び今後の課題	<p>コロナの影響で、講師の了解を得られず、事業そのものを開催することができなかった。今後は、こういう事態になった場合に代替え事業が実施できるかも含めて検討したい。</p>						
担当課による評価結果			C :食育の視点で事業を実施できなかった				

事業名	市民と事業者へワーク・ライフ・バランスの情報提供と啓発						
実施時期	6月・11月	実施対象	市民、市内在勤者、市内事業者				
内容	<p>ワーク・ライフ・バランスを呼びかけ、家庭で食事をとる時間を十分確保してもらうことで、食を通じた家族のコミュニケーションの促進を図る。</p> <p>①広報つばめ6月1日号の男女共同参画コラムでワーク・ライフ・バランスと食育について掲載し、意識啓発を図る。</p> <p>②11月に事業者・住民を対象に「つばめ・やひこ女性活躍推進フォーラム2020」を開催予定。ワーク・ライフ・バランスの実現をテーマの一つとして講演会と事業所の取組事例発表を行う。仕事と家庭生活の両立の重要性を啓発する。</p>						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R2年	目標値の根拠
		ワーク・ライフ・バランスについての理解度	アンケート調査の回答割合	%	目標	90	昨年度の実績を考慮し、フォーラム参加者の90%がワーク・ライフ・バランスについて理解を深めるものとして算出
					実績	95.2	
					達成率	106%	
事業の実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	食育月間に合わせて、食育の視点を取り入れた男女共同参画コラムを企画した					
2	ライフステージに応じて、参加しやすい形態を考慮したか	「つばめ・やひこ女性活躍推進フォーラム2020」については、リアルタイム配信、オンデマンド配信、サテライト会場設置など参加方法を複数用意し、参加しやすい形態とした。					
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	「ワーク・ライフ・バランス」と「食育」をテーマにした男女共同参画コラムを掲載した。					
成果及び今後の課題	<p>今年度は、ワーク・ライフ・バランスと食育がどのように関わっているか周知することができた。</p> <p>来年度は、引き続きワーク・ライフ・バランスの重要性を多くの人に向けて啓発することで、食を通じたコミュニケーションの促進に繋げていきたい。</p>						
担当課による評価結果			A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている				

事業名	道の駅「国上」で提供する「おにぎり」地産地消の推進						
実施時期	随時	実施対象	道の駅国上の来訪者				
内容	分水地区で収穫した米を100%使用した、道の駅手作りの「おにぎり」食べてもらうことで、地産地消を図り、燕市でとれたお米の美味しさを知ってもらう。						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R2年	目標値の根拠
		燕市産おにぎり提供数	累計食数	食	目標	5,185	目標値：前年度実績を元に算出
					実績	3,531	
					達成率	68.1%	
事業の 実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	分水地区で収穫されたコシヒカリを使用したおにぎりを提供し、地産地消の推進に取り組んだ。					
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	気軽に立ち寄れる道の駅の食堂で実施しているため、老若男女問わず利用（提供）することが可能。					
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	メニューや店内に産地名を表示しPRを行った。					
成果及び今後の課題	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、道の駅の食堂利用者が減少したことにより、目標値には届かなかった。 Withコロナの状況でしばらく利用者の減少が続くと思われるが、その状況下でも、地元産の食材を使用していることをPRしていきたい。						
担当課による評価結果			B：食育の視点を取り入れ事業を実施している				

事業名	備蓄品の整備						
実施時期	8月	実施対象	市民				
内容	各小学校区に複数ある避難所のうち1か所に備蓄品を整備。 平成30年度から、アレルギー対応非常食「梅がゆ」を備蓄。						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R2年	目標値の根拠
		アレルギー対応非常食の備蓄数	今年度追加分を含めたアレルギー対応非常食の備蓄総数	食	目標	2,160	備蓄計画 平成30～令和4年度で合計 3,640食備蓄予定
					実績	2,160	
					達成率	100%	
事業の 実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	食物アレルギー者等に対応した非常食を備蓄するよう考慮。					
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか						
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	食物アレルギー者等に対応した非常食を備蓄するよう考慮。					
成果及び今後の課題	今後も備蓄計画に基づき備蓄していく。						
担当課による評価結果			B：食育の視点を取り入れ事業を実施している				

事業名	防災出前講座による災害時の食事について知識の普及						
実施時期	通年			実施対象	市民		
内容	地域や家庭・事業所等における防災について、実体験を含めた講座を実施。その中で、災害時の食事の在り方について正しい知識の普及を図る。						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R2年	目標値の根拠
		防災出前講座 実施回数	実施回数	回	目標	21	令和元年度実施回数21回
					実績	18	
					達成率	86%	
事業の 実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	地域や家庭・事業所等における防災をテーマに、実体験を含めた災害時の食事の紹介					
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	まちづくり協議会・自治会・保健推進委員・老人会等、それぞれのコミュニティに応じて実施。					
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	衛生面を最重視し、生き残るための食事について周知した。					
成果及び今後の課題	様々なコミュニティから防災出前講座の依頼があり、毎年度、多くの市民に周知できている。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により回数は減少した。						
担当課による評価結果			B : 食育の視点を取り入れ事業を実施している				

事業名	女性防災リーダー養成講座						
実施時期	11月25日(水)9時30分～11時 11月26日(木)19時～20時30分			実施対象	防災に関心のある女性		
内容	「家庭内備蓄と避難時の携行食、災害食調理」をテーマとした講座。 ※女性防災リーダー養成講座とは・・・女性のみを対象に、多くの防災知識を習得してもらうための、より具体的・実践的な全6テーマの講座。						
事業の 検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R2年	目標値の根拠
		女性防災リー ダー養成講座第 6回受講者数	受講者数	人	目標	37	令和元年度受講者数37人
					実績	37	
					達成率	100%	
事業の 実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	「家庭内備蓄と避難時の携行食・災害食調理」をテーマに、実体験を含めた避難所での食事例の紹介や衛生管理、食物アレルギー対応、家庭での備蓄方法等についての講座を企画。 また、アルファ米の試食や災害食調理も企画。					
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	受講者と調整のうえ日程を決定し実施。					
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	「家庭内備蓄と避難時の携行食・災害食調理」をテーマに、実体験を含めた避難所での食事例の紹介や衛生管理、食物アレルギー対応、家庭での備蓄方法等についての講座を実施。 また、アルファ米の試食や災害食調理も体験。					
成果及び今後の課題	家庭内備蓄における優先順位やローリングストック・避難所での食事に関する重要事項について、また、アルファ米や水漬けパスタなどの調理法を習得していただいた。						
担当課による評価結果			A : 実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている				